

図書館だより

86

お待たせしました！中央図書館再開しました！！



正面



正面鉄骨

西東京市中央図書館は、令和3年4月1日から1年間、耐震補強等改修工事のために休館していました。休館中は、利用者の方から再開を待ちわびる声をたくさんいただきました。ご理解・ご協力くださりありがとうございました。

令和4年4月1日に再開し、多くの方が以前のように図書館を利用してくださる様子を見て、図書館員一同安堵し、同時に活力をいただきました。

利用者の方の期待に応えることができるよう、また「図書館は楽しい！役に立つね!!」と感じていただけるよう、イベント等にも一層力を入れて取り組んでいきます。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

2階もリニューアルしました!

地域・行政資料室

閲覧机を増やし、地図などの資料を広げて閲覧できるようになりました。

広さは変わりませんが、木製の書架に統一して、落ち着いたある居心地のよい資料室になりました。廊下には展示コーナーもありますので、是非お寄りください。



●2階の展示コーナー

現在、西東京市在住の書家である廣瀬舟雲さんの作品などを公開しています。

変更した点を一部紹介します



●1階カウンター

カウンターはレイアウトに変更はありませんが、テーブルが新しくなりました。車椅子での利用などに対応できる、フロア側の足元に空間のあるものになっています。



●おはなしコーナー

床は温かみのある木目が変わりました♪壁の色は優しいイエローと落ち着いたブルーに変わり、より明るく安らぐ空間になりました。こちらのコーナーには0歳から2歳のお子さんを対象とした絵本を揃えています。



●雑誌コーナー

雑誌コーナーの本棚が新しくなりました!最新刊の入った扉を開くと、同じ雑誌のバックナンバーが入っており、簡単に手に取ることができます。



●時代小説コーナー

文庫の本棚が新しくなりました!また、人気の高い時代小説をまとめてご覧いただける「時代小説コーナー」をつくりました。お気に入りのシリーズを見つけにいらしてください。

西東京市子ども読書活動推進計画 策定記念講演会

— 子どもの成長と絵本 —

令和4年3月26日(土) 芝久保公民館

絵本研究家の市村久子さんをお迎えし、「子どもの成長と絵本」というテーマでご講演いただきました。都内の幼稚園に20年勤務された市村さんの教育実践体験が元となった絵本『おおきな おおきな おいも』(赤羽末吉さく・え 福音館書店)の誕生秘話や、子どもたちに絵本を読み聞かせした時のエピソードなどについてお話をうかがうことができました。

絵本に登場するおおきなおいもの絵の実物をお持ちいただきました。子どもたちが描いたその絵はとても大きく、力強く描かれていて、参加者の目を引いていました。

先生のお話は具体的な読み聞かせの事例が多く、子育て中の保護者にはもちろんのこと、子どもの本に関心がある方々にも、興味深い内容だったのではないかと思います。

手遊びやわらべ歌をまじえながら、たくさんの絵本を紹介いただき、楽しく有意義な講演となりました。



参加された方の感想

- ・子どもたちの年齢と成長と発達に合わせて、絵本を選ぶことの大切さ、子どもたちに読み聞かせる時の心構えのようなことを学ばせてもらいました。
- ・実践的な保育活動の中で、子どもたちのなまの姿が、手に取るようにわかるお話しで、市村先生のおふれる愛情を感じました。大変心温まりました。また、自分の読み聞かせにも活かしたいと思っています。

図書館多文化サービスでは各種講座を実施しました

にほんご多読ワークショップ

(オンライン)令和4年2月13日(日) 講師:NPO法人多言語多読

日本語学習者が楽しく読んで日本語に触れることができる「にほんご多読」の読み物を紹介する講座を実施しました。参加者からは「多読のやり方（「聞き読み」など）を具体的に話して下さってイメージが湧きました」「レベル別多読本を使って良さを実感していたので、詳細な使い方を教えて頂けてとても良かった」などの感想がありました。



イランカラプテ～西東京市でアイヌ文化を知る講座～

令和4年3月5日(土)柳沢公民館 講師:宇佐恵美さん(アイヌ文化活動アドバイザー)

公益財団法人アイヌ民族文化財団よりアイヌ文化活動アドバイザーをお招きして、アイヌ文化の紹介、切り絵体験や民族楽器の紹介等を通してアイヌ文化に触れていただきました。参加者からは「普段は知ることのできないアイヌの世界を知れて、とても勉強になりました」「気軽に親子でアイヌ文化に触れられて、楽しめました！」などのお声をいただきました。



(オンライン)令和4年3月21日(月) 講師:鈴木祐子さん(ABC4YOU自由が丘英語教室 代表)

昨年度好評だった英語の絵本を紹介する講座を再び開催しました。講座では、講師による英語の絵本のよみきかせに始まり、英語の習熟度に応じた絵本の紹介や楽しく続けて英語の絵本を読むには、どのように進めていけばいいのか、など具体的なアドバイスもありました。参加者からは「子供向けの英語の絵本を何から選んだらいいのかわからなかったので、今回の講座で選書のポイントがわかり、とても参考になりました」「読み聞かせの手法や効果を細かく説明されていた点がとても良かったです」などの感想がありました。



これまで、本を読む習慣は全くなかった。最寄りの保谷駅の隣に図書館が一つあることを知っているにも関わらず、本を借りることを全く考えなかった。しかし、なぜ図書館に行くようになったかと言うと、今の大学生活と大きな関連性がある。

ある日、大学の図書館で資格試験の図書を借りようとしたら、何気なく母国の旅行ガイドを見つけた。これまでは「図書館=勉強の場所」のようなイメージがあったが、図書館に日常生活の本もあるとは思っていなかった。図書館は勉強のための場所だけでなく、趣味にも触れられるということを発見した。だから、よく図書館に行くようになった。学部の専門知識の参考文献はもちろん、料理レシピや旅行ガイドなどの本も多く借りた。

その後、コロナが原因で大学の対面授業は全てオンライン授業になって、しばらくの間大学の図書館に行けなかった。しかし、保谷駅の隣に図書館があることを突然思い出した。いつも図書館の下に直結するスーパーで買い物をしているが、4階の図書館に一度も行ったことがない。ある日、好奇心を持って

4階の西東京市図書館に行って、本と一緒に暮らす生活を始めてみた。大学の図書館に行くのに1時間半ほど必要なので、かなり時間がかかる。けれども、今は自宅から徒歩10分で本を借りられるようになったので、非常に満足している。

西東京市図書館では、論文のための参考文献から一人暮らしのガイドまで、様々な図書が所蔵されている。本を購入するお金も節約できた。東京23区の図書館より、西東京市図書館にある図書の数がやや少ないかもしれないが、所蔵されていない図書に対してリクエストすることができる。だから、自分が読みたい図書の約8~9割は西東京市図書館から借りることができる。図書館が自分のニーズを満足できることにいつも感謝している。

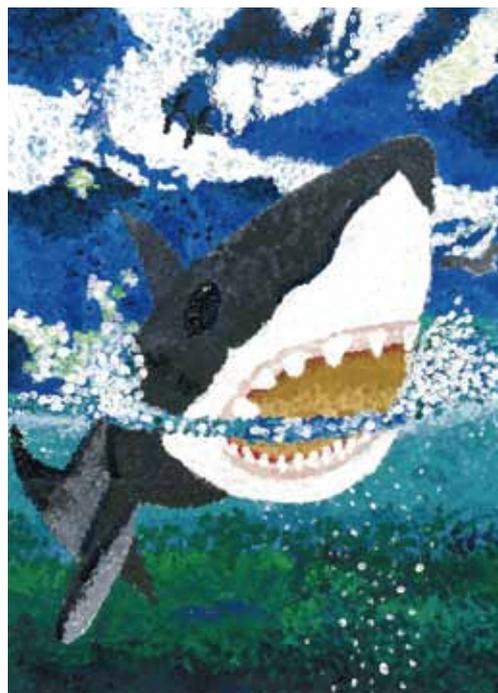
図書館を通じて視野を広げてきた。どんな気持ちであっても図書館はそこにある。将来大学院進学のために西東京市から離れるかもしれない。また、将来日本から母国に帰る可能性も高い。しかし、最寄りの保谷駅にある西東京市図書館をずっと忘れない。ここに成長の痕跡が残っているからだ。

利用者エッセイ

わたしと 図書館

劉 逸翔(リュウイッシュョウ)

小さなアーティスト



海で遊ぶ優しいサメ

栄小学校6年

図書館員の本棚

『ルリユール』

村山早紀 著
ポプラ社 2013年
978-4-5911-3621-8



ルリユールという仕事を知っていますか。本がまだ貴重だった頃のヨーロッパで発達した仕事です。糸で仮綴じされただけの本を製本したり、古くなって壊れた本を綴じ直し、装幀し直したりする仕事です。出版と製本が分かれていなかった日本では、最近になって入ってきた職業で、本を修復する技術として定着されつつあります。この本は日本の女の子が幻のルリユール工房に迷い込み、本の修復作業を通して依頼人の本への想いに共感していく物語です。

この本に出てくる依頼人と同じように特定の本

に思い入れのある人は少なくないと思います。本にはそれを手に取るに至った背景、読んでいるときの状況などが内容と共に胸に刻み込まれるものだからです。しかし年月を重ねていくうちに壊れてしまう。直したい、でも想いは壊したくない。そんな依頼人の思い出を聞き、叶えてくれるルリユールの仕事は魔法使いみたいだと思いました。読み込みすぎて壊れてしまったときはぜひルリユール工房へお持ちください。

(図書館員M)